

平成23年度第2回荒尾市民病院あり方検討会議事録要旨

◇日時：平成23年12月2日（金）14時から14時50分まで

◇場所：荒尾市役所 3階 31号会議室

◇出席者：【あり方検討会委員】・・・7名

小野友道氏（熊本保健科学大学学長）、藤崎龍美氏（荒尾市社会福祉協議会会長）、鴻江圭子氏（荒尾市行政改革推進審議会）、下條寛二氏（株式会社 近代経営研究所専務取締役）、池田洋一郎氏（有明保健所所長）、生野繁子氏（九州看護福祉大学看護学科長）、立石和裕氏（立石公認会計士事務所代表）

欠席：高橋洋氏（荒尾市医師会会長）

事務局：【荒尾市】・・・9名

山下副市長、山崎総務部長、江上総務課長、橋本財政課長、浅田政策企画課長、松尾財政係長、吉田財政課副主任、田川政策企画課長補佐兼室長、林田政策企画課副主任

【荒尾市民病院】・・・6名

大嶋病院事業管理者、荒牧副院長兼事務部長、西村看護部長、近藤事務部次長兼経営企画課長、野村総務課長、中野医事課長

以上、出席者計 22名

1. 開会

浅田政策企画課長が開会を宣言。

2. 会長挨拶

前回の検討会では、今年度の収支状況を含め、平成22年度の決算や中期経営計画の取組み状況について意見交換を行い、また、立石委員からは、経営効率化の観点から計画の目標と決算結果を比較した分析結果を説明いただいたところである。本日の検討会では、まず、前回の議事録の確認後、事務局が作成した荒尾市民病院中期経営計画の実施状況に関する点検・評価報告書（案）に基づき議論していきたい。

3. 検討事項

（1）第1回荒尾市民病院あり方検討会議事録要旨（案）について

田川政策企画課長補佐兼室長から、平成23年度第1回荒尾市民病院あり方検討会議事録要旨（案）について説明が行われ、全会一致で承認を得た。また、本議事録については、荒尾市ホームページにおいて公表を行うことについても、併せて承認された。

(2) 荒尾市民病院中期経営計画の実施状況に関する点検・評価報告書(案)及び同資料(案)について

議事の冒頭、立石委員から、前回報告された平成22年度荒尾市民病院の経営分析に係る追加内容について説明が行われた。今回の資料では、資金(純資産)の推移、借入金依存度増減と資金構成比の関係、医業損益の推移が追加されており、市民病院の経営改善の傾向がより明らかになっている。

次に、田川政策企画課長補佐兼室長から、荒尾市民病院中期経営計画の実施状況に関する点検・評価報告書(案)に基づき、(1)経営効率化の視点、(2)再編・ネットワーク化の視点、(3)経営形態の見直しの視点(4)まとめ、について説明が行われた。

「(1) 経営効率化の視点」に関する主な意見

- 医療スタッフの増員の説明の中で、看護師が7名増員と記載されているが、退職者等を考慮した対前年比を示しているのか。
→平成22年度は、定年等の退職者13名に対し、新たに20名を採用しており、差し引き7名を純増して医療体制の強化を図っている。
- 平成22年度も引き続き黒字化が図られていることは評価できるが、重要業績指標の内、病床利用率や平均在院日数、材料費対医業収益比率といった、目標数値を未達成の項目に関する原因の分析と対策は行っているか。
→病床利用率については、現時点における推移状況に基づけば、平成23年度は目標数値の達成が見込まれる。しかしながら、材料費対医業収益比率については、薬価等が高額なため目標達成が困難な状況である。
- 疾病構造としてがん患者数が多いことが薬価に影響しているのか。
→新薬の抗がん剤は値引き率が低く高価なため、材料費の圧縮が難しい。
- 医療・介護・福祉施設の連携強化の中で、近年、医薬品の種類が多数存在するため、個人の服用履歴の把握に苦慮しており、多種の医薬品服用による認知症との関係性も懸念している。特に高齢者は多種の医薬品を服用しているが、市民病院では「お薬手帳」などを通じて患者の服用状況の確認や管理を行っているか。
→同じ効用でも、ジェネリック医薬品では複数の種類が存在するため、入院の際に薬局で、服用中の医薬品の確認を行っているが、市民病院でも対応に苦慮しているため、間違いが無いように徹底した管理指導を行っている。

「(2) 再編・ネットワーク化の視点」に関する主な意見

- 報告書(案)では、「本年度を目処に再編・統合の方針決定と合わせて」と記載されているが、病院施設の建て替え検討や他の医療機関との調整などもあり、現時点では「方針決定」という表現は強い印象を受ける。また、第6次熊本県保健医療計画が平成24

年度中に策定される予定であるため、その動向を考慮しながら、再編・統合を検討してはどうか。

→「方針決定」という文言については、表現を修正して対応したい。

「(3) 経営形態の見直しの視点」に関する主な意見

○現時点では市民病院の経営状況は改善傾向にあり、中期経営計画と著しい違いは確認されないことから、現時点では、経営形態の見直しは必要ないと思われる。

「(4) まとめ」に関する主な意見

○医師数の増加や医業収益の増加状況と併せて、今後の課題である、重要業績指標の未達成項目改善や、ジェネリック薬品活用等による材料費の低減、施設老朽化への対応も記載されているので、構成としてはこれで良いのではないかと。但し、病床利用率の具体的な改善策や、病院建設資金をどのように調達するのかについても考える必要がある。

○ジェネリック薬品の導入により期待される効果の表現はこれで良いか。

→ジェネリック医薬品の活用率向上により、薬価の引き下げに効果があると見込まれるため、この表現で良いと思われる。

○病院の建替えについては、「老朽化が進む病院施設への対応が求められる中」と、端的に表現されているが、質の高い医療を将来に亘って安定的に提供するためには重要な事項なので、今後、病院建設の方向性について具体的に検討を進める必要がある。

○最終的な点検・評価報告書の語句や体裁については、会長と事務局に一任していただいでよろしいか。

(異議なし)

山下副市長：今年度は、公立病院改革ガイドラインに基づき、平成22年度の荒尾市民病院中期経営計画の実施状況について点検評価をいただいたところだが、平成22年度決算の最終利益が2億8,900万円となり、昨年度に引き続き増収増益となったことは、委員各位の助言や支援によるものと考えている。今後も、委員から指摘があった医療スタッフ確保の強化を始めとして、重要業績指標の未達成項目の改善やジェネリック薬品の活用、老朽化が進む病院施設への対応といった各種課題について、医療環境を取り巻く状況に注視しながら解決へ向けて取り組みたい。

大嶋事業管理者：本年度は2回に亘り、荒尾市民病院のあり方について様々な角度から議論いただいたところである。決算状況を見ると、全般的には順調に推移しているものと認識しているが、今後も気を引き締めながら各種課題の解決へ向けて取り組みたい。また、病院施設の建替えについても、本検討会の議論を通じて、一步ずつ前へ進めていきたいと考えている。

4. その他

浅田政策企画課長から、今後の予定として、点検・評価報告書の最終原稿を再度委員に確認いただいた上で、年内に、あり方検討会を代表して小野会長と高橋副会長から、市長へ報告書を提出する旨を説明した。また、議事録や報告書については、荒尾市ホームページで公開を行う予定である。

5. 閉会

小野会長が14時50分に荒尾市民病院あり方検討会の閉会を宣した。

以上